



NPO☆Kyoken通信



特定非営利活動法人教育研究所発行103号

平成23年6月14日発行
梅雨号

本部 〒233-0013 横浜市港南区丸山台2-26-20
TEL:045-848-3761/FAX:045-848-3742
URL:<http://kyoken.org/>

宇奈月自立塾 〒938-0282 富山県黒部市宇奈月温泉5509-16
TEL:0765-62-9681/ FAX:0765-62-1120
E-mail:contact@kyoken.org

梅雨の季節になりました。ジメジメとした気候の時期なので、塾では、食事の管理にしっかりと気を配りたいと思っています。

5月13日（金）から約1週間、牟田先生がカナダへの留学に興味のある生徒数名を引率してカナダのバンクーバーへと向かいました。10代後半から30代と幅広い年代の人が参加し、教研と協力事業体であるウエストコースト・インターナショナルの語学学校の体験入学、ウエストコーストの元生徒の女性が行ったヨガ教室、ビクトリアのブッチャーズガーデンの見学、州立大学のビジネス・コミュニティーカレッジ、私学の語学学校、ブリティッシュコロンビア大学（UBC）の見学など、カナダ留学を「体験」してきました。

昨年の夏に宇奈月自立塾で開催した「高卒認定試験合宿」に参加後、高卒認定を取得、その後、秋にカナダへと旅立ち、現在、ウエストコーストの語学学校で英語を学ぶK君も合流し、みんなが新しい世界と文化を頭だけではなく肌で感じたとても楽しく素晴らしい旅でした。カナダ留学視察旅行を希望した生徒のうち数名は留学を決断しカナダへ旅立ちました。彼ら彼女らの新しい人生のはじまりを応援したいと思っています。

カナダ留学視察旅行の詳細は今回の海外特集のページにて特集を組んでいます。実際に体験した生徒の感想が掲載されていますので、ご覧ください。

また、牟田武生のブログ（5/21～5/24掲載）にも牟田先生の視点から見たカナダ紀行が掲載されていますのでそちらをご欄下さい。（牟田武生のブログは教研 HP <http://kyoken.org> から見るができます）

宇奈月自立塾では12月6日開始の合宿型若者自立プログラム科の訓練生6名が6カ月の訓練を終えて卒業しました。黒部の地元の工場に就職が決まった人、東北の復興支援の住み込みの派遣の仕事が決まりその地へ向かった人、自分の育った地元に戻りこれから仕事を探す人、これからどんどん面接を受ける人、6名それぞれ、自分の未来に向かって前向きに歩きはじめました。入塾したばかりの昨年12月に比べ、心身ともに逞しくなりました。

今回が最後の合宿型若者自立プログラム科は6月28日に開始いたします。（募集はもう締め切りました。）合宿型若者自立プログラム科は廃止が決定したため、6月の訓練が最後となります。なお、合宿型若者自立プログラム科は廃止されますが、宇奈月自立塾への「入塾」はいつでもできます。ただし、国の補助を受けることができないので、寮費等の自己負担額が合宿型に比べ高くなります。入塾をご検討の方はお気軽に宇奈月自立塾までお問い合わせください。

新連載① 今、不登校・ひきこもりは・・・

牟田 武生



ひきこもりとその増加、治療・予防

① 不登校からひきこもりへ、そしてニートへ

児童生徒が義務教育課程で不登校になると、スクールカウンセラーは「様子をみましょう」「待ちましょう」「本人の心にエネルギーが溜まるまでは待ちましょう」といった受容的のみの対応が平成6年頃から増えていった。

今までは病院などで特有の感情や心の動きのうつ病や統合失調症などに罹った患者さん相手にカウンセリングをしていた人、心理学だけを大学院で勉強した若い人、結婚の経験もなく、まして、子どもを育てた経験もない人が、臨床心理士という肩書きだけで子どものカウンセリング経験が全くないのにはじめた。

不登校という状態像を示す子どもの中には、病気でないが様々な症状を訴える子、発達障害を持つ子、思春期独特な複雑な感情を表す普通の子、など様々な子がいる。臨床心理士はそのような様々な症状を現す、子や保護者の前でどう対応したらよいか、悩んだ。

もし、強い指導的なアドバイスを行ない、追い詰められて子どもが自殺でもしたら、大変なことになるかもしれない。どうしよう。そこで、取り敢えず、傾聴を重視するロジャース流の相談者の気持ちに寄り添う受容のみの相談を始めた。

「不登校は時間が経ち、本人が成長すれば、自然と治まり、学校や社会に参加できる」といった、何の根拠もない仮説によるものだった。結果として、スクールカウンセラーの努力にも拘わらず、児童生徒数は減少しているにも係らず、この15年間で不登校は2倍も増えていった。

実際には不登校になる児童生徒数は、平成6年以後急増している。また、不登校の長期化を意味する2学年以上にまたがる不登校も、確実に増加傾向をしめしている。学年をまたがる不登校は、ひきこもりへの移行を意味していると考えられる。

そこで教育委員会や学校も教育相談を充実させ、不登校問題に取り組んでいるが、残念ながらその効果を示す、学校への復帰率も小学校30%前後、中学校25%前後（東京都）だ。小学生で70%、中学生で75%は復帰しないという深刻な問題なのだ。

また、最近では全日制高等学校を中退してしまう高校生が多く、高校1年生で6%、2年生で3%、3年生で1%の生徒が学校をやめている。その多くが出席日数不足のために欠課時数が多くなり、単位未修得になり進級が出来なくなって中退してしまう不登校がらみであると言っても過言ではない。

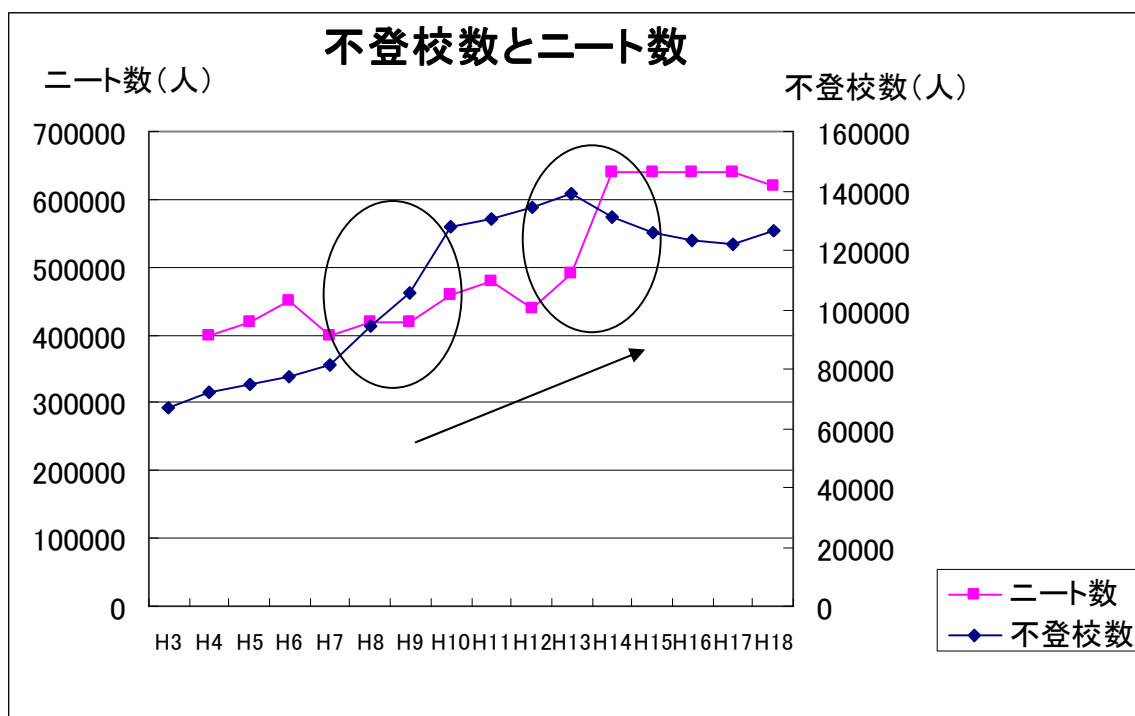
不登校からひきこもりに移行した最近のデータはない、平成5年に中学3年生だった生徒が20歳になった時、23%の人が不就労・不就学だ。文部省の追跡調査だから学校や社会に復帰している人にとっては回答しやすいが、不登校からひきこもってしまった人は自己有用感が薄く、心理的にはこのような調査には答えにくいと考えるのが一般的だ。

答えてくれた人（改善が進んだ人）のグループの数字と考えても良いと思う。ですから、実際は相当数の人がひきこもりの状態にあると考えられる。

40 年近く不登校の臨床事例をしている私の推測だが約 40% 近くの人が、不登校からひきこもりになっているのではないと思われる。不登校が社会問題として取り上げられるようになって、30 年近く経つ。当時、中学生や高校生だった子は 30 代後半から 40 代前半になっている。

ひきこもりの人の年齢も同じくらいになっている。ひきこもりやニートになった人の自立支援を若者自立塾で、行ない始めてから 15 年以上ひきこもった人が、相談に来るようになった。次の表を見ると、平成 6 年から 10 年まで続いた不登校の急増は 5 年くらい経った平成 15 年から 19 年に掛けて、ニートの増加になって現れるのがよくわかる。このように不登校はひきこもりを経由してニートに繋がっていくということが考えられる。

（表）不登校の増加とニートの増加



厚生労働省の調査でニート数をみると平成 20 年で 64 万人。これは 15 歳以上 34 歳未満の人の数だ。ニートは 1 年以上、学校にも行かず、雇用もされず、労働訓練も受けていない人であるから、社会的にみれば、ひきこもりの人と同じだ。30 代後半の人数を入れると、推定ですが 100 万人はいると考えられる。

② 大学生から、就職浪人中に、

最近では小、中、高生に限らず、大学に入り、不適應を起こす大学生も多くなっている。大学生でも、入学早々、新しい環境になじめずに、大学に行けなくなる人も多くいる。その人達の多くが就職したかったが就職出来ず、進路変更して大学に入学したが、授業は面白くないし、わからない。友達もクラスがないからできないし、さらに、一般教養の授業は学生が多く、疎外感と孤独感に耐え切れずに、次第に足が大学から遠のいてしまった。というケースが多くある。

また、「大学3年生で行けなくなってしまった。」という理工学部系の学生も多くいる。3年生になるとゼミや共同実験の時間があり、仲間とのコミュニケーションがうまく取れず実験等が進まず、そのうち、次第に仲間から遠のき授業に参加できなくなったという学生だ。学校の勉強は好きだった。高校までは先生がいつも中心になって仕切ってくれていたから、それにしたがっていればよかった。受験勉強も一人で、丸暗記や計算問題を解けばよかったから楽だった。自分のペースで勉強して人に気を使わずに済んだから問題はなかった。

元々、対人関係が苦手だったが同世代の人だけでチームを組み、何かをやる時は、何を話せばいいのか、自分が何をやれば良いのか、どうして振る舞えば良いのか、わからなくなった。そして、実験や共同制作が終わると気疲れのために、精神的にへとへとになってしまう。

少子化の中で同胞がなく、大人の中で育った子どもは仲間同士で切磋琢磨する経験に乏しく。人と交わることが自然と苦手になってしまった。

そして、大学生で学校に行けなくなる人の多くは、対人関係の躓きから行けなくなるので、さらに対人関係に自信をなくしてしまい。長期に渡るひきこもりになるケースも多いようだ。大学生の不登校の場合、一旦ひきこもってしまうと、「大学を卒業しなければならぬ」という親の価値感や観念が小さい頃から植え付けられ、苦しい受験勉強をしてきたという思いに捉われていることが多いようだ。その観念から逃れることができずに、うつ病になったり、様々な神経症状が現れ苦しみ、社会復帰するまでに時間がかかる場合も多い事実だ。

③ 社会人になってから

学生時代はなんとなく、誰かがお膳立てしてやってくれ、所謂、お客さんでいられた。先生から言われたことだけをやっていたのでそんなに厳しいことも言われなかった。しかし、社会人になると、そうはいかなくなってくる。

昔と違い、今の時代、社会人になるため社内企業研修はほとんどなく、即、戦力として企業は考える。特に四大新卒、正社員になると、会社の人の期待も大きく、何にから何まで主体的に考え、仕事をこなして行かなければならなくなる。

ビジネスマナーは勿論のこと、人間関係も学生時代とは違って、経営者、上司、非正規の社員、お客さん、同業他社の人、下請けの人など、様々な利害関係のある第三者との人間関係を適切にこなしていかなければならない。だから、年棒とか終身給与総額などといったことは考えずに、給与が、それほど変わらず、与えられた仕事だけやっていけば良い、フリーターやアルバイトの方が楽だと、言って辞めていく若者も多いようだ。

新卒者で入社後 1 年間で会社を辞める人の割合を七・五・三と呼ぶ。七は中卒、五は高卒、三は大卒をさす。皆、抱えている問題は人間関係力やコミュニケーション能力、社会性の不足だ。自己都合で辞めた人達を「大人になっていない」と経営者達はみている。

人間関係力のなさで辞めた人達もなかなか社会復帰できない。失業保険が切れた後、あるものはバイトで凌ぎ、家にいる者で、そのまま、ひきこもるケースも少なくない。

義務教育の不登校から、高校中退後から、浪人中に、大学をやめてから、会社を辞めて、ひきこもりの落とし穴の入り口はどこでも待ち受けている。特に長く不況状態が続き、就職活動が思うようにいかない今日では、いつのまにか、ひきこもりという人も増えているようだ。

④ なぜ、ひきこもりは日本と韓国にだけなのか

「ひきこもりは、昔はなかったけれど、病気でしょう」と言う識者も多い。たしかに、5 年以上長期間、完全にひきこもってしまった人が、二次症状として様々な疾患を持っている人はいるが、ひきこもりが疾病ならば、他の流行性でない疾病の疫学調査にみられるように、どの国でも均一に発生しているはずである。それが日本と韓国だけに偏るのは不思議だ。

おそらく、日本の戦後の社会経済環境からくるストレスや核家族化、地域社会の崩壊、学歴主義など複合的な問題が絡みあって不登校・ひきこもりが起こったと考えられる。日本に「追い付け、追い越せ」と、韓国は日本の社会構造を真似て発展して来て、似たような社会環境になり、後発して、不登校やひきこもりが発生したと考えられる。

しかし、韓国では日本の不登校やひきこもりの対応方法や失敗を学び、韓国青少年相談院を中心にして、2005 年より本格的な取組を始めている。韓国の青少年の問題行動への取組は、未来を背負う青少年のために縦割り行政の枠を超え対応している。

その成果には目を見張るものがある。その秘訣は日本に比べ、まだ、人々の間には、目上の者への尊敬という儒教教えの影響が残っている上、人間関係においても、まだ濃厚さがあり、人とひととの絆が強く、これが解決の決め手になっている。

人間関係が希薄な方が、さわやか、さっぱりで気楽だと感じる希薄化が進んでしまった日本より、人間関係の濃厚な韓国の方が、不登校、ひきこもりは早く解決につながる可能性が高い。

⑤ ひきこもりはやはり社会問題

ひきこもりは義務教育の不登校から、高校中退から、大学生や社会人になってからも起こる。いったんひきこもりになると、単純には解決せずに長期化していくケースが多い。そして、長くなればなるほど、社会適応は難しくなる。それはひきこもると、社会経験が新しく積み上げられずに、人間的な成長が止まってしまうからだ。一度、成長が止まると対社会に対してポジティブな考え方ができなくなってしまいネガティブな思考が優先され、社会的退行が起これ、今を生きていく上で、必要な様々な社会的スキルが育たず、ひきこもりの時間が長くなればなるほど、同世代の人と比べると、スキルに大きな開きが出来てしまうからだ。

このままの状態では推移していくとしたら、不登校や社会不適応になる人の数が減少せず

に、ひきこもりやニートの数は、少しずつ増加する。勿論、ひきこもりの人は生産人口ではなく消費人口だ。富を生むことはほとんどない。

高齢化した親の庇護の元で、現在は生活しているが、年金の仕組み上、年金の資金を生み出す、若年労働者の不足は、基金の資金不足を招き、年金受給者にとっても、減額せざるを得ない状況が起き大変なことになる。少子高齢化が進み、2人の若者が4人の受給者を支えなければならない時代はすぐそこまで来ている。

その上、若い人が、ひきこもりやニートという形で増加すれば、事態は、さらに悪化する。ひきこもりは日本の大きな社会問題なのだ。

それだけでなく、高齢者になりつつある、ひきこもりの子を支える親は、減額する年金やタンス預金で、現在は支えているが、もし、それができなくなったら、生活保護など福祉に頼らざるを得ない。しかし、国の財政事情は巨額の負債を抱えている。これ以上、支出を増やすことはできない。ひきこもりの人も人間だ。健康で文化的な最低限の生活を営む権利がある。

仮にひきこもりの人が100万人いるとしら、年間一人あたり約120万円の生活保護費がかかるすると、1兆2000億円も掛かってしまう。もし、この人たちが働き始め、税金を納めるようになると、どうなるか。

支出がなくなり、収入が増えるのだから、経済効果は2倍、3倍になる。また、本人にとっても、ひきこもってしまい、自信や自己有用感が持てずに、生きるより、社会に出て、自己実現に向うことの方が、本人にとっても幸せではないだろうか。

しかし、そのような正論は日本の政治や行政では通じない。不安、怠惰、不信、恐れ、など様々な感情が入り乱れる、長期に渡るひきこもりになると、自分が何とかして動こうともがいても、ひとりではなかなか抜け切れない。様々な支援がないと、社会的な自立は難しいのが現状だ。

(次回ひきこもりへの具体的対応へ続く)

.....教育研究所スケジュール.....

◎ 6月のスケジュール

11日	土	横浜講演会	ウイリング横浜
16日	木	兵庫県但馬やまびこの郷 講演	兵庫県
19日	日	タイゴルフ事業 バンコクへ(4泊5日)	
25日	土	NPO 通常総会	横浜丸山台事務所
28日	火	合宿型若者自立プラン 基金訓練スタート	宇奈月自立塾

◎ 7月のスケジュール

3日	日	富山講演会	富山県民会館
9日	土	金沢東部地区 講演	横浜市金沢区
14日	木	長野県 民生委員他 視察	宇奈月自立塾
30日	土	横浜講演会	ウイリング横浜



合宿型の意義～打ち切られた合宿型支援～

牟田 光生

2009 年 11 月の行政刷新会議の結果…

若者自立塾事業は事業の有効性（費用対効果）、自己負担のあり方も含めて一旦廃止をして、再検討すべき。となり、廃止に追い込まれた。

全体の就労率は 6 割弱と決して低くない。

むしろ、ついこの間まで社会参加をしていない若者達を相手に 3 カ月（6 か月で行っている団体も 10 団体あった）での、この数値は現在行われている緊急人材育成事業基金訓練の就労率 59.3%（昨年末調べ）に比べ、同等程度の数値なので非常に健闘している数値である。

確かに自立塾利用者は当初見込んだ数値の半数程度であったが、若者自立塾事業は利用者数に応じて訓練費が支払われることになっており、費用の半分の予算は返納されていた。

費用対効果としては実利主義なので問題はなかった。

問題は利用者の少なさだが、すぐに決断して入塾する者など殆ど居らず、まずは親と面談し、親にアドバイスし、少しずつ親子関係を修復しながら、本人を促し、やっと決意して相談に来る。と言うのが常で、すぐに動き出すような人達では無いのが現状だ。（2 年程入塾にかかった人も居た）

そんな廃止決定してしまった自立塾だが、「基金訓練合宿型若者自立プログラム科」として、同じような形で残る事になった。

民主党の政治家は廃止にしたいが、厚労省側は効果があると感じていた結果だと考えられる。

しかし…その合宿型若者自立プログラム科も 1 年で幕を閉じる事になった。

元々、緊急人材育成支援事業の基金訓練（派遣切り等求職者を支援する基金訓練）とニート等の若者（求職者にこれからなる若者達）を対象とした事業との違いがあったからだ、と考えられる。

基金訓練は「求職者支援制度」として国家予算の中に組み入れられ恒久化していく事になった。

しかし、合宿型は正式には、質の向上を図るため認定基準の改正で打ち切られた。

しかし、これは紙切れ一枚の通知文で、データも根拠も書かれていない全く不透明で一方的な通知で切られた形だ。

元々、合宿型若者自立プログラム科とはいえ、合宿に際して日々の生活訓練には全く、監査をする側の雇用能力開発機構も理解を示していないし、箱物（建物等）さえ揃っていれば OK と言う有様だった。

これはそういった若者に理解があった、ノウハウをせっかく積んだ厚労省側が基金訓練とは担当が違うと言う理由でその細かい所までの見方が出来なかったからだと考えられる。

切られてしまった合宿型の若者（ニート等）の支援事業。

なぜ我々は合宿にこだわるかを検証していきたい。

大きく分けると…

○ 職業訓練の看板が外されてしまった

宇奈月自立塾に来る前の若者の履歴書空白期間平均は約3年である、中には24年の空白者がある人もいた。

宇奈月自立塾を卒業し大半は仕事に就く(約70～75%)、つかなくても求職活動をする(約85～90%)。その際面接で、「空白(約3年のこもっている期間)はありましたが、なんとか頑張ろうと思い、合宿型での職業訓練を受けました。様々な職場に出向き就労体験を行った事で自分にとってやりたい業種が見つかりました」と、社会復帰する際に言うことが出来る。ところが…職業訓練の看板を外されると、そのような訓練が出来ても(勿論やりますが)公的に認められず、変な施設に行っていた。と見られ文句が言えなくなる恐れがある。

まして、合宿型の県外生の率は概ね3、4割(宇奈月は5割)理解ある地元企業以外への就職の際は中々通用しなくなる。

○ 費用が上がる

現在訓練費は基金訓練の中で国から支給されるが、訓練費が出なくなると当然自己負担金の割合が高くなる。

今まで、宇奈月自立塾では生活保護の家庭も預かっていたし、約2割は低所得者層の人達が利用していた。

それらの人達が費用の上がる事により利用がしにくくなるのが考えられる。

低所得者層がまた低所得、生活保護になっていくスパイラルはTVでも新聞でも記事をみる事が出来る、身近な問題なのだ。それらの解決策の一つでもあるハズなのに…である。

塾に来る塾生は様々な背景や年齢層だが、共通して言える事はコミュニケーションが苦手な点だ。

これらを上達するのはハッキリ言ってカウンセリングでも投薬でも指導者の問いかけでもない！

同じ立場の人と(塾生同士等)対等に素の話が出来る事である。

宇奈月自立塾で昨年12月から入塾した塾生達が今月7日に卒塾した。

卒塾の前の晩等は、こっそり私の目を盗んで、部屋で乾杯を消灯後している若者達もいた。

訓練には参加しなかったが、今近くの市で独り暮らしをしながらバイトと学校に通っているT君の姿もあった。厳密な寮のルールからすればNGである。

しかし、コミュニケーションに苦手意識を抱える若者が、私の顔色を盗み(空気を読み)皆でお菓子やおつまみ、酒やジュースを持ち寄って(仲間同士で計画を立て)、仲間同士で連携をし、仲間同士で楽しむ。そういった経験を経て友達が出来、コミュニケーション力が自然と備わってくるのではないかと私は思う。

それが通いの塾生と合宿生活との大きな違いである。

悪い事を推奨しているのではない。

訓練だけでなく、3度の飯を同じ釜で食らい。共に生活し。

そのなかで総合的に、特にコミュニケーション能力が向上していく。

小手先のテクニックでなく、そういった施設・雰囲気・グループダイナミクスの重要性は合宿生活体験の中でしか得られないと私は痛感している。

海外特集1

カナダ留学視察旅行をして



◎ カナダ留学を希望し、実際にカナダ留学視察旅行へ行っていた方の感想文です。

この度、カナダ留学希望の一人として視察旅行に同行させて頂きました。

私達が訪れた5月中旬のバンクーバーは、カナダを代表するメープル(かえで)が新緑の小さく可愛らしい葉を枝につけ、見頃を迎えたピンク色の八重桜があちこちでほころび、街中が春色の草花で彩られていました。

そんな中、学校見学などの視察はもちろんのこと、水上バスやフェリーに乗って海をまたいでの観光や、イランや中華料理など毎食異なる外国グルメへの挑戦、お世話して頂いたウェストコーストの皆さんとの溪谷ハイキング交流など、4泊6日では足りないほど刺激的で内容の濃い視察旅行でした。

留学視察という点ではバンクーバーは治安も良く、買い物や交通といった都会の利便性があり且つ山や海といった大自然とも共存していて、住みやすく留学にも適した都市という印象を受けました。

教育方針も、個人のレベル・希望に沿った学校や勉強の仕方を選択できる柔軟なシステムがあり、州と教育機関が連携して学生の雇用を生み出す仕組みや、充実した就職サポート体制にも非常に感銘を受けました。

又、積極的に外国人を受け入れている移民国家であり、各移民文化が尊重されているため偏見や差別も少なく、実際多くの外国人の方が学校で真剣に学び、カナダという異国の地で生き生きと働く姿を見ることが出来ました。

そして何よりも一番魅力的に感じたのは、お世話になったウェストコーストの皆さんです。様々なバックグラウンドを持つ私達を温かく受け入れて下さり、まるで放課後に仲間同士で集まったような穏やかで温かい雰囲気がありました。交流させて頂いた現在留学中の方やウェストコーストのOBの方も皆さん充実した笑顔で、お話を聞く度に自然と自分も将来への期待感で胸が高鳴りました。

実際、留学ともなるとさすがに不安が大きく躊躇してしまいましたが、教育研究所を通してウェストコーストの方に留学生生活をサポートして頂けるという点は、本当に大きな安心感に繋がりますし、前進への確実な後押しとなると感じました。

行きの成田空港、人見知りが激しく顔を赤らめ恥ずかしそうにしていたS君が、カナダ到着二日目にはキラキラと目を輝かせ自分から積極的に話しかけて来てくれた姿を見て、本当に嬉しくなりました。私達より一足先に留学していた物静かなK君も、柔らかな笑顔でホストファミリーと英語で談笑する姿がとても印象的でした。

私もカナダで新しいことに挑戦して、ありのままの自分で生きていける強さを見に付けたいと思います。有意義で楽しいカナダ留学視察旅行に参加させて頂きまして、心よりありがとうございました！



海外特集2 みんなで行こう！楽しいタイ旅行

「みんなで一緒にタイへ行ってみよう！」

その話は5月のゴールデンウィーク期間中からはじまりました。

それは、宇奈月自立塾スタッフが中心になって企画をたて、修学旅行や大学のサークル旅行のようなノリで塾のみんなで行く「タイ旅行」を企画しようという話でした。とはいっても、私はタイどころか今まで一度も「外国」へ行ったことがあらず、パスポートはとったもののまだ使っておらず、タンスの中に眠ったまま…。

現在、宇奈月自立塾から行くタイ旅行の行動日程の詳細を企画中ですが、9月24日から4泊5日の旅ということは決定いたしました。日程ですが、牟田先生の旧友の息子さんが経営されているタイの語学学校への体験入学のカリキュラムを組んだり、ただ「観光」をするだけでなく、今後、タイへ留学を希望する生徒達の「タイ留学視察旅行」も兼ねたいと思っています。

そして、参加する今後の彼らの人生においての考え方や、生きていて感じる感性に何か「刺激」を与える旅行にしていきたいです。

新しい考え方や感性はどんなにお金を積んでも得られず、実際に体験し、行動し、肌で感じて、本人の心で磨くことしかできないと思います。また、全く知らない文化や生活に触れることにより、従来の自分の常識に縛られた、かたい頭ががち割られ、人生の新しい見方を発見できるのではと思います。「未知」なるものに触れることは「恐怖」ではなく「喜び」であることを参加される皆さんに感じていただき、私自身もそう感じたいと思っています。

私は今年27歳になるのですが、23歳の秋に宇奈月若者自立塾に入塾しました。ちょうど今から3年半前のことで教育研究所のお世話になってそろそろ4年がたとうとしています。14歳の時に県外から富山に引っ越しをしたのをきっかけに不登校となり、学校を退学したり、就職しては辞めたりの繰り返しの日々を送ってきました。23歳の秋に入塾後、3カ月の合宿訓練を終えて、接客系の仕事に就職。塾を卒業してから約3年半、転職もしましたが、「社会の一員」としては働き続けました。「働く、動く」ということが「当たり前」の「感覚」になり、むしろ動いていないほうが「気持ち悪い」感覚になったため、今後も自分はきっと仕事を辞めても、不安を抱えても挫折しても何かと働き続けるだろうとは思っています。

そして、27歳の今年、私はあることを決断しました。それは「留学」をするという決断。

今までの自分の常識と考えを、頭をかち割って覆したい、もっともっと自分の可能性を試したい、海外で働いてみたい、もう一度勉強したい、自意識過剰なほどコンプレックスだらけの自分を変えたい、過去の呪縛から解放されたい、などなど、留学をしたい理由にはプラスな理由もあればマイナスな理由もあります。

今まで27年間生きてきて漠然と「留学」したい、「海外」で生活したいという思いは何度もありました。だけど、実際に行動にうつすとなると、海の外の遠い世界へ行くことが不安になり動けませんでした。今回この「タイ旅行」を企画するにあたって、そういった留学への漠然とした思いを抱えた人達のきっかけになることができたらと思っています。私自身も日本人であり、アジアの一員であるため、アジアへの留学にはとても興味があるので、企画をしていて今からとても楽しみです。



みんなで行こう！楽しいタイ旅行 計画予定



企画しているタイ旅行ですが、現在、参加者を募集中です。（但し参加資格は NPO 会員のみ）
ご興味のある方は是非一緒に行きましょう！詳細は次ページをご覧ください。

出発：9月24日～（4泊5日）

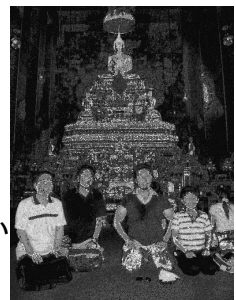
目的地：バンコクを中心した地域

参加費用：1人あたり8万円～10万円

◎ 飛行機代、燃料チャージ代、ホテル代込。朝、昼、夜三食付き
旅行保険別

集合場所：成田国際空港

◎ 宇奈月自立塾からの参加者はみんなで車にのって一緒に空港に向かい



申込先：Tel 0765-62-9681（宇奈月自立塾Tel） e-mail contact@kyoken.org

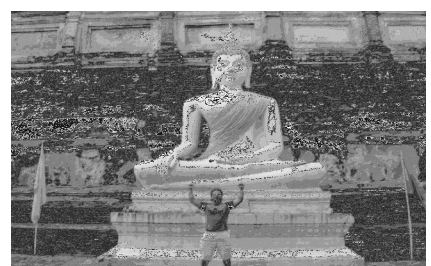
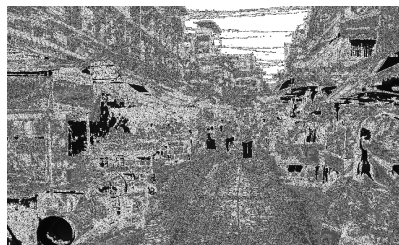
◎ 参加をご希望の方はまずはお電話かメールでご連絡ください。詳細をお伝えいたします。

申込期限：8月5日まで。

◎ パスポートのない人は申込期限までにとってください。宇奈月自立塾からの参加者で持っていない人は、7月に一緒に取りに行きます。

※ ホテルの部屋は基本的にツインです。シングル希望の方は参加費用が多少高くなります。

※ 持病がある方は申込時にお知らせください。



宇奈月自立塾では、7月初旬から試験までの約一ヶ月間、高卒認定試験のための合宿を行う予定です。合宿プログラムは受験科目、苦手科目などの克服を考慮にいれ四週間のプログラムで実施いたします。

◎ 平成 23 年度高卒認定試験宇奈月合宿予定

7月4日(月)	午後5時現地集合
7月5日(火)～7月28日(木)	高卒認定試験合宿
7月29日(金)	午前10時現地解散
8月3日・4日	高卒認定試験



※ 部分参加もできます。ご相談下さい。

◎ 振込先銀行	横浜銀行	上永谷支店（323）	普通	1442815
	名義	特定非営利活動法人教育研究所	理事長	牟田武生

本人氏名	年齢
保護者名	
住所 〒	
電話	
自宅 - -	携帯（本人） - -
Email @	
受験科目	

冬彦の挑戦。ひきこもりから卒業するぞ！

連載第四回目 体験入塾編 ②

前回までのあらすじ

人間関係のつまずきと趣味のゲームに熱中し、高校を中退後、オンラインゲーム三昧のひきこもり生活を10年近くおくる冬彦。宇奈月自立塾への体験入塾を、駄々をこねつつも、父の説得により決意した彼は、前回、高速バスに乗って、横浜から宇奈月自立塾に向かった。その日の夜に到着後、スタッフの大岩さんと食事を一緒にとったり、一緒に温泉につかったりして、少しだが塾の人々に触れて、心の何かが動いていくのを感じた冬彦。

今日から体験入塾1日目。冬彦の心はどう変化していくのだろうか。

登場人物



冬彦（28歳）

前回、宇奈月自立塾到着、今から体験入塾1日目をむかえようとしている。



川本君（29歳）

もうすぐ、卒業を迎える塾生。大学を卒業後、数年働いていたが、うつにより退職。塾に入塾するまで3年ほどひきこもっていた。



大岩さん（38歳）

宇奈月自立塾スタッフ

自宅は横浜だが、宇奈月自立塾に単身赴任で宿直で働いている。月1回、横浜の自宅に帰って、妻と息子と休日過ごしている。



富川君（19歳）

川本君のルームメイト。中学を不登校後、数年、食っちゃ寝のひきこもり生活を送っていたため、入塾した当初は体重が100キロを超えていた。



体験入塾1日目の朝。研修一日目。



「そろそろ研修の時間か・・・。9時から研修で動きやすい格好で一階のロビーに來いとか言っていたけど、何すんだ・・・。それにしても朝早く起きすぎでだりい・・・。だいたい、なんで起床時間が6時30分なんだよ。はやすぎるだろ。マジわけわかんねえ・・・」

（ブツブツと小言をつぶやきながらも、部屋を出て階段を下り、一階ロビーに向かう冬彦）



「おっ、ちゃんと時間通りにきたね。えらいよ。」（すでにロビーで冬彦を待っていた大岩さん）



「・・・・朝は起きられなかったですけどね・・・・」



「みんな、家で不規則な生活を送っていたからはじめはそんなものさ。だから、最初は先輩の塾生やスタッフが朝、起こしにいくんだ。大丈夫。そのうち自然と慣れてきて無理なく起きられるようになるよ。」



「はあ・・・ところで今日の研修って何をするんですか？」



「今日は宇奈月温泉街を散歩するよ。今日はいい天気だから散歩するとすごく気持ち良いと思うし、歩くことによって気分転換できるしね。そうそう、散歩には冬彦君だけじゃなくて、川本君と富川君って子も一緒に行くよ。」



「研修というと、研修室で授業を聞いてノートをとったりするものと思っていたのですが・・・散歩ですか？」



「みんな研修っていうと、難しい講義を受けるのかと思いがちだけどそうではないんだ。難しい内容は塾の生活に慣れたからやっていくけど、入塾したばかりの人の場合、知らない場所へきて緊張状態が続いているし、ひきこもり生活で体力が落ちちゃっているから、軽い散歩は彼らの心にも体にも良いんだよ。散歩の他に緊張した体をほぐすためにストレッチなんかもやるんだ。今日は午前中は軽い散歩を、午後は筋肉が気持ち良いくらいの軽いストレッチを行うと思っているんだ。おっ、川本君と富川君もやってきた。じゃあ、そろそろ出発だな。」

(川本君と富川君という塾生2人が大岩さんと冬彦のところに来てくる。)



「少し遅れてすみません、大岩さん。それと、冬彦君。僕覚えている？」



「・・・・・・確か、俺を起こしにきてくれた・・・人ですよ・・・。なんだか・・・すみません・・・。」
(そう言って、バツの悪い表情で下を向く冬彦。)



「謝らなくても大丈夫だよ。僕も最初はそうだったから。あつ、僕、川本っていいます。年齢は29歳です。よろしく！」



「俺は富川っていいます。19歳です。ちなみに、川本さんのルームメイトです。みんなからは「とみっち」と呼ばれているんで良かったら、そう呼んでください。」



「とみっちとは年齢が10歳も離れているけど、仲良くやっているんだ。他人との共同生活ってうざったいように見えて、結構楽しいよ。」



「年齢が離れていると、同年代と違ってあまり意識しないし、川本さんはしっかりしているんで、いつも面倒みてもらって助けてもらっています。20歳過ぎたら酒の飲み方も川本さんに教えてもらおうかとひそかに思っています。」 (そう言って笑う富川君)



「じゃあ、みんなそろそろ出発しようか。いい天気だし景色を楽しみながらゆっくりと歩こう。」

(冬彦達が靴を履いて外にでる。そして、青空の下、ゆっくりとした歩調で歩いていく。)



「そうそう、川本君、就職の面接どうだった？」



「今、結果待ちの状態です。受かるといいのですが、それなりに大手なところなので落ちている可能性は高いです。」（ちょっと複雑そうな表情をする川本君）



「そうか。他の就職先はまだまだあるから、辛いかもしれないけれど、面接はどんどん受けていったほうがいいよ。」



「そうなんですけどね。だけど、落ちるとやはりへこみます。」（少し苦笑いをする川本君）



「川本さん、自動車整備の仕事を受けられたんですよね？」



「うん。大学を卒業した後、そういった仕事に就いていたからもう一度チャレンジしたいんだ。元々、車は好きだしやっぱりあきらめたくない。もう一度頑張りたいんだ。」



「頑張ることは大切だけど、頑張りすぎたら倒れちゃうから、肩に力を入れすぎないで頑張るんだよ。」



「そうですね、ぼちぼち頑張ります。ところで、とみっちはどう？なんか仕事決まった？」



「俺は本が好きだから本屋の仕事につきたいと思って、今度、書店の店員の面接を受けようと思って
いるんです。だけど・・・俺は中学で不登校になってから塾にくるまで、ずっとひきこもっていたから仕事
がちゃんと続くのかなっていう不安はかなりあるんです。」（不安そうな表情で下を向く川本君）



「とみっちは最初、すごく緊張していて誰とも話をしなくて、その上、体力もぜんぜんないから少し歩
いただけですぐにハアハアと息切れしていたよね。だけど、こんなふうに散歩をしたり、ストレッチを
したり、週に一回の運動の時間で体を動かしたりしてだんだん体力もついてきて、就労体験なんかもは
じめは疲れちゃって途中で帰ってきたりしたこともあったのに、今では就労体験先の人に仕事が効率よ
くできるようになったって褒められるぐらいになったよね。だから、大丈夫！あきらめなければ仕事を
続けることができるよ！」



「そうだといいんですが・・・。やっぱり不安になります。俺の悪いくせで不安になると不安に支配され
て行動ができなくなるんですよ・・・。」



「あまり深く考えすぎないで、自分がやりたいと思う道をやってごらん。行動すると何かしら必ず道は
開けてくるんだから。大丈夫！とみっちは最初に比べてすごく成長したよ！自信を持って！それに体重
も落ちて身軽になったしね。」



「(少し恥ずかしそうに笑いながら冬彦のほうに顔を向けて) 俺、入塾したばかりの頃、体重が 100 キ
ロを超えていたんですよ。ずっと、食っちゃ寝生活を送っていたからなんですけど、顔と首の境目がわ
からないくらいデブで・・・。だけど、ダイエットしたわけではないんだけど、朝きちんと起きて、三
食しっかり食べて体を動かすようになったら、自然と体重が落ちてきて体力もついてきて、今もデブな
んですが、100 キロ以下の体重になったんです。」



「はあ・・・。」（散歩で疲れてきて息切れをしながら小さな声で返事をする冬彦）



「冬彦君、ちょっと息切れしているけど大丈夫？」



「はあはあ・・・あまり大丈夫ではないかもしれません・・・ずっと動いていないのでかなり疲れまして。」



「少し休憩しようか。」



「・・・・・・はあ・・・できるなら・・・・。」（苦しそうに返事をする冬彦）



「よし、じゃあそこにベンチがあるからそこで休憩しよう」

（ベンチに到着し、座って休む冬彦達。休んでいる冬彦の隣に川本君がやって来る。）



「はい、冬彦君。のどかわいたでしょ、お茶買ってきたからどうぞ。ん？冬彦君、ずっと下を向いているけれど大丈夫？」（下を向いて、はあはあと苦しうに息をする冬彦を心配する川本君）



「（下を向いて苦しうに）・・・・俺、今、自分がすごい情けないんです・・・・。こう見えて俺、中学の頃はサッカー部で、ずっと補欠だったのですが、朝練とかもしっかりでていて体力に自信はありました。高校を入学したばかりの頃も人より体力がある自信はありました。だけど・・・今はちょっと歩いただけで、息切れして眩暈がして・・・・俺、本当に情けないです・・・・。」



「大丈夫。みんなはじめはそんな感じだから。体力はまだ若いから体を動かせばついてくると思うし、僕だってはじめは冬彦君みたいにすぐにばてていたよ。」



「だけど、俺は高校を中退して学歴もないし、職歴もありません・・・・。その上、体力もなきゃどうしたらいいんですか・・・・。部屋の中でネットゲームするしか生きる道はないんです・・・・。俺には・・・・。」



「高校中退が気になるならば、高卒認定試験を今から受けることもできるし、学歴にコンプレックスがあるのならば、佐野君（前回 102 号に登場）のように今からでも進学する道があるよ。それに、進学は日本の学校にこだわる必要もないよ。今、教研は「海外留学」への道も開いているんだ。例えば、カナダ留学とかね。カナダは日本と違って、18、9 歳の子ども以外にも、社会にでてもう一度勉強したいという人がたくさんいて、冬彦君ぐらいの年齢の人達の学生もたくさんいるよ。お金が気になるなら働きながら勉強することも可能だ。自分の人生に失望してはいけないよ。これから体力どんどんつけていって、楽しい思いもたくさんして、未来を切り開くことは可能さ！」



「・・・・・・」

数年ぶりに自分の思いをぼそぼそと口にした冬彦。

葛藤があるのは悩みがあるのはこれから変わる証拠。

ずっと葛藤をネットゲーム漬けの生活で偽り、隠していた冬彦の新しい一歩のはじまりかもしれない

（次回へ続く）



教研理事にインタビュー

第三回 理事 大橋 聡司社長

今回で3回目の教研理事にインタビューコーナーですが、今回は理事・大橋聡司社長にインタビューをしてみました。大橋社長は富山県にて、大高建設（株）、（株）リレーションズ、宇奈月ビール（株）など、様々な事業を展開され、ご活躍されている方で、大橋社長が経営されている宇奈月ビール（株）の「宇奈月麦酒館」へは多くの宇奈月自立塾の塾生達が就労体験へ行っており、就労体験先としてもご協力いただいております。

（１） 大橋社長が現在、経営されている会社、事業等は何でしょうか？

大橋社長：大高建設株式会社・・・土木、建築などの総合建設業
株式会社リレーションズ・・・レストラン（しゃぶしゃぶ温野菜）の運営・ＦＣ本部事業
宇奈月ビール株式会社・・・地ビールの製造・販売、レストラン
を営んでいます。

（２） 現在の事業をはじめた理由、きっかけなどをお願いいたします。

大橋社長：大高建設株式会社・・・父の後を継いだからです。（大橋社長で3代目）
株式会社リレーションズ・・・公共事業の縮小に伴い、事業の多角化を図るため新規事業に進出したためです。
宇奈月ビール株式会社・・・前社長の退任に伴う、思いもかけぬ昇格のためです。

（３） 現在経営されている会社のアピールをお願いいたします。

大橋社長：大高建設株式会社・・・総合力で県下トップクラスのところです。
株式会社リレーションズ・・・接客レベルの高さで高評価を得ているところです。
宇奈月ビール株式会社・・・国際ビール大賞コンテストで8年連続受賞したところです。

（４） 今後の宇奈月、黒部の発展に何を目標せばいいのか、ご教授お願いします。

大橋社長：世界トップレベルの観光資源を生かした、ＥＣＯ温泉リゾートとしての取り組みを目指せばいいのではと思っています。

（５） 今後、教育研究所が発展していくためには、どのように展開していけばいいのか、経営者の目からみてのアドバイスをお願いいたします。

大橋社長：素晴らしい理念と活動内容だが、いかんせん活動が地元で知られていない、市全域や県レベルではなおさらです。情報発信と地域とのきずなづくりが必要だと思います。

大橋社長、インタビューにお答えいただきありがとうございました。

宇奈月麦酒館のHPのアドレスはこちらです。

<http://www.unazuki-beer.jp/>



NPO法人教育研究所の会員の申し込みについてのご連絡

従来、会員の皆様には会費を年会費として一律5,000円お支払いいただいておりますが、平成21年1月から、1口5,000円としてお申し込みをいただいております。

会員の特典も新しく追加しておりますのでご検討いただければ幸いです。

○ 会員の有効期間はお支払いいただいた時から、1年間の有効期間となります。

○ 年会費

※ 1口¥5,000 (1口増えるごとに¥5,000加算されます)

※ 銀行ご利用の場合は下記の口座にお支払いください。その場合は、必ずご自身のお名前を入れてください。よろしくお願い致します。

新しく会員の申込をされる方は、下記の申込書でご連絡ください。

会費納入口座は 北陸銀行 宇奈月支店
(ホクリクギンコウ ウナヅキシテン)
名義 特定非営利活動法人教育研究所
(普) 5014010
郵便振替 00230-9-112182

特定非営利活動法人教育研究所会員の方には、

○ カウンセリング料の割引 1万5千円→1万円

○ 年5回程度の定期通信の発行

○ 講演会などのイベントのお知らせ

○ お母さんたちのミニ図書館の利用

・ 新特典

○ グループカウンセリングの割引(1口につき1回無料)

※ グループカウンセリングは年3回、横浜・宇奈月で実施します。

○ 教育研究所温泉宿泊施設(AEHビル)をご家族で利用できます。(会員割引があります)

新規入会申込書 (新しく会員になる方は郵送か FAX またはメールでご連絡ください)

(郵便振替でお申込みいただく方は必要ありません)

入会者氏名	
住所	〒

郵送先 〒233-0013 横浜市港南区丸山台 2-26-20

Fax 045-848-3742 e-mail contact@kyoken.org

お母さんたちの交流会のお知らせ

「毎月 5～6 人が集まって、お茶を飲みながらおしゃべりに花を咲かせています。共通する悩みを持つもの同士、気軽な気持ちで、息抜きにでも参加して頂ければいいなと思っています。」
(卒業生の母より)

- ・ 同時に親の会ミニ図書館を開催。
- ・ 会員の方ならどなたでも利用可。
- ・ 不登校やひきこもりに関する本や心理の本等が 300 冊以上あります。ぜひご利用下さい。予約の必要はありません。

毎月第 4 土曜日午後 1 時から 4 時頃まで
NPO 教育研究所横浜事務所にて。
参加希望者は教育研究所までお願いします。



教研☆伝言板

継続して寄付を求めています。
専用寄付口座
横浜銀行 上永谷支店
店番号 323 口座番号 1442822
名義人 特定非営利活動法人
教育研究所 (寄付) 理事長 牟田 武生
ボランティア募集中
教科指導の補助出来る方 (英語・数学・国語)
カウンセリングやケースワークの臨床をしたい方
高卒認程度の教科指導できる方。
技術をお持ちの方で、定年退職をされ、
その技術を若者に伝え、若者の自立支援に
役立ちたい方

編集後記

6 月になり、梅雨の季節となりました。宇奈月は気温が少しずつあがってきて半袖で過ごす塾生もでてきました。

6 月 7 日に 12 月生 6 名が卒業し、塾のメンバーの人数が少なくなったせいか、宇奈月自立塾は静かな雰囲気です。食事の人数も減り、少し寂しい感じもします。しかし、6 月 28 日には合宿型訓練を受講希望している人達が入塾してくるので、また賑やかな宇奈月自立塾になるでしょう！

そして、日本国内で就職する道だけでなく、「海外」へ行く選択を考えている塾生達も増えてきました。

どんな道を選択するにしても、「1 人 1 人が心から納得できる選択」を選んでくれたらと思います。